

心の扉を

開いたら

患者会・福祉団体便り

認知度は低いと思います
が、オリンピック終了後に同
地区でパラリンピックが開催
されるのと同様に、国民体育
大会後に同地区にて全国障害
者スポーツ大会が開催されま
す。この大会は、1965年
から開催していた身体障害者
大会と92年から開催していた
知的障がい者大会が2001
年に統合され、さらに08年か
らは精神障がい者競技の参加
も可能となり、3種障がい者
が参加する大規模なスポーツ
大会となりました。

16年目の今年は「2016
希望郷いわて大会」として22
日、24日の3日間、岩手県内で
開かれます。全国から約55
00人の選手団により、12種
類の競技と4種目のオープン
競技が行われます。沖縄県か
らは団長の私を含め、個人競
技30人のほか九州地区予選で
優勝し、全国大会派遣の権利
を得た聴覚障害女子バレー、
知的障がい者サッカーなど総
勢90人が、参加します。

トップアスリート支援と地
域スポーツの活性化をスポー
ツ振興の両輪として、11年に
施行された「スポーツ基本
法」では、「障害者が自主的

障がい者のスポーツ大会

かつ積極的にスポーツを行う
ことができるよう、障害の種
類及び程度に応じ必要な配慮
をしつつ推進されなければな
らない」とされています。

大会の最大の目的は、障がい
当事者にスポーツ競技の楽し
さを体験していただくと同
時に、多くの国民の障がい理
解を深め、障がい者の社会参
加の推進に寄与することです。
開催には大勢の行政職
員、地域ボランティアの運営
参加が不可欠で、大会を通じ
て地域住民と障がいのある方
々が直接交流をする機会を設
けることになるために、結果
として障がいのある方が地域
で安心して生活できる共生社
会の実現へ続くものと私は信
じています。

10月15日、県総合グラウン
ドでスポーツ技術の発展、社
会啓発、そして自立と社会参
加促進を目的とし、知的障が
い者2150人が参加した
「第25回県ゆうあいスポーツ
大会」が開催されました。大
会長の私が何よりうれしかった
のは、会場で応援していた
2千余人の関係者、3000人
超のボランティアです。日常
は、障がい当事者達と直接対
話する機会の少ない県行政職
員などの皆さんが終日、笑顔
で障がいのある方と交流する
姿が随所に見受けられたこと
が最大の意義だと感激し喜ん
でいます。